

## おわりに

松岡 啓介 核融合科学研究所  
(核融合科学専攻)

---

本研究課題の遂行によって、総研大に少なからず知的財産を創出したものと考えている。即ち、歴史的資料、オーラルヒストリー、科学映像を収集し、それらの目録の基盤機関にまたがる横断検索を可能にすることによって、将来、「科学と社会」のための研究・教育・広報に活用可能な知的財産を創出することが部分的ではあるが可能となった。一部ではあるが、基盤機関の成立に関する歴史の記述がその一環である。

これらのことによって本課題の実施母体である総研大は、現代日本において軽視されてきた公的機関の歴史的資料の保存とオーラルヒストリーや映像の収集に関して、先導的な役割を果たしたと言えるであろう。また、公的研究機関の本来持っている社会的責任、あるいは未来世代に対する責任である資料及び研究機関の成り立ち等の歴史研究の成果の保存と公開について、総研大が真剣な取りくみをしていることを示したことによって、総研大が長期的視野と高い理念をもった大学であることを社会に知らしめることが出来たと言えるであろう。

ここに述べた成果は、「概要」でも述べたが、総研大の特長である基盤機関の間の横の連携を活用した本研究課題があつて初めて可能であり、各基盤機関が独立にアーカイブズ活動や歴史の研究を行っていたのでは連携の強化にはつながらなかったと考えられる。史料情報共有化システムには未だ多くの基盤機関が未加入であることと、システムのハードウェアは葉山に設置されることが望ましいこと等を勘案すると、本課題に関する活動は今後とも総研大を中心として何らかの形で継続されること

おわりに

が望ましい。

小沼通二・慶應義塾大学名誉教授、西村純・宇宙科学研究所名誉教授、高橋嘉右・高エネルギー加速器研究機構名誉教授には、本研究課題実施期間を通して、研究会・打合せにご出席くださり有益なコメントをいただきましたことを感謝いたします。